



## 待降節第 1 主日 (マルコ 13:33-37)

救い主を待ち望む心と呼び覚ます

待降節、新しい典礼暦年が始まりました。「救い主を待ち望む心」を呼び覚ましましょう。「目を覚ましていなさい」という主の呼びかけに答えて、去年の待降節と何か違う心構えを準備できるようにしましょう。

この前調子に乗っていっぱい根魚を釣り上げましたという話を入れようと思っていたら、福見教会出身の岩本繁幸神父さまから 24 日のクリスマスイブから 25 日クリスマス当日にお休みを取って帰省しますと電話がかかってきました。

ミサの時間は何時ですかと言われたので、思い切って 24 日福見の夜 7 時のミサと、25 日朝 9 時の高井旅のミサをしてくれとお願いしましたら、いいですよとすぐ承諾してくれました。そういうわけで、福見と高井旅のミサは岩本神父さまがささげてくださいます。

今、岩本神父さまは教区会計という重い務めを果たしながら、カトリックセンターで日々人間関係に苦労しているだろうなあと思っています。ですから、今回は巡回教会の皆さんとミサをささげて大いに慰められるに違いないと思っています。

わたしたちはどうかすると、クリスマスも毎年のこととしてその年その年のクリスマスの違いを意識しないで迎えることがあり得ます。けれども各自よく考えると、毎年何かしらの違う環境の中で待降節を過ごし、クリスマスを迎えるのではないのでしょうか。

たとえば、子供たちがいる家庭であれば、子供たちの成長に応じて、去年と今年では違った待降節、違った降誕節を迎えているはずです。上の学校に行くことになり、県内県外に子供がでることになれば、家族みんなを迎えられるのは今年までかもしれません。就職していよいよ離れた場所で住み始めるとなればなおさらです。家から離れる子供たちも、今までとは違った環境で待降節・降誕節を迎えることになります。

ある人は結婚し、新しい家庭の中で今までと違った待降節を過ごし、クリスマスを迎えます。子供に恵まれれば、今まで存在しなかった全く新しい命と、この季節を迎えるわけです。赤ちゃんの音がする環境で迎えるクリスマスは、聖家族の雰囲気味わえる特別な時期です。

ある人は家族を見取る時期が来ています。今年の待降節とクリスマスは、来年は見取っている家族がこの世を旅立ち、一緒に祝うことはできないかもしれません。すると今年の待降節とクリスマスは特別なものになります。一日一日、大切に過ごしたいと思える日々になるでしょう。

中田神父は「浜串小教区の皆さんと過ごす 5 回目の待降節だなあ」とと思っています。やはり 5 回目ともなると、この先そう長くは皆さんとこの季節を過ごせないだろうなあと思うわけです。司祭は常に異動が付きまといますから、今年も浜串小教区の皆さんとこの時期を迎え、クリスマスを迎えられるなあと感謝するのです。本当にありがたいことです。

何らかの、目の付けどころを持って、これからの待降節を過ごしてほしいと思います。準備したり待ったりという営みは、つつい単調なものになりがちです。環境の違いがあるかもしれないし、心境の違いがあるかもしれませぬ。立場の違いもあるだろうし、楽しみの度合いも、緊張の度合いも毎年違う人がいるはずです。

そうした違いを見つけて心に留め、待降節を実りあるものとしていきましょう。今週選ばれた福音朗読には、「目を覚ましていなさい」という呼びかけが繰り返されています。朗読では主人の帰りを、目を覚まして待っているようにということですが、わたしたちは救い主の到来を、目を覚まして待ちます。

神の御子イエス・キリストの到来が、待降節を心して過ごす唯一の理由です。イエスはわたしたちを救いへと引き上げてくださる唯一の希望です。イエス・キリストが与えられるという喜びには何物も代えられない。かたい希望のうちに、これからの待降節を過ごすことにいたしましょう。

待降節第 2 主日(マルコ 1:1-8)